

(法第 28 条第 1 項関係「前事業年度の事業報告書」)

令和 7 年度事業報告書

令和 7 年 4 月 1 日から令和 8 年 3 月 31 日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

1 事業実施の実績

① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進

- ・ 春秋の干潟観察会には合わせて 300 名程の参加があった。これは例年並みの参加者数。近年の傾向として低年齢層の参加者が増加している。
- ・ 12 月開催の冬鳥観察会は、例年より参加が少なかった。近年渡り鳥の減少傾向が続いており、その事実を伝える機会となった。
- ・ 6 年前から 7 月 1 日を中津干潟の日として広報を続けている。これに関連した記念行事「豊かな自然を未来につなぐⅢ」をリルドリームで開催した。サブテーマに「源流から干潟まで…中津ん水物語」掲げトークセッションを行った。中津市を流れる山国川を中津干潟の母として話題の中心にすえながら理事長とゲストの対話形式で議論を深めた。ラムサール条約や自然共生サイト指定で地域の未来を明るく照らそうと各自の知見をぶつけ合った。私たちが暮らす自然環境を保全することで、経済活動を含む様々な利点があることを一緒に学んだ。
- ・ 中津干潟の日を記念した写真展を初めて中津市歴史博物館で行った。開催中の来館者は約 1,600 名であった。
- ・ 環境省の自然共生サイトに関連するベッコウトンボ観察会、春の干潟観察会、アカテガニ産卵観察会を実施した。ベッコウトンボ観察会、アカテガニ産卵観察会には、例年以上の参加者があり自然共生サイトについて知ってもらう機会を得た。
- ・ 第 9 回中津の海の絵コンテストは、前年度を越える 968 点の応募を得た。これは中津市の小学生の 4 人に 1 人が応募した計算になる。入賞作品は 3 月の TOTO リモデルフェアで全作品を掲載したポスターと併せて展示を行った。
- ・ ひがたらぼを中心に夏休みワークショップ（植物観察・海ごみ・小さな生きもの・貝紫染色・海藻押し葉）を行った。小学生を中心に 20 名ほどが標本づくりや染色のより専門的な体験を行った。
- ・ 8 月「中津ひがた子どもアカデミア」を大学関係者や地元団体・研究者の協力を得て、今津コミュニティーセンターで開催した。市内外から 80 名ほどの参加があった。
- ・ 12 月、第 9 回「中津干潟アカデミア・研究発表会」は、今津コミュニティーセンターで実施した。YouTube を利用したネット中継も合わせて行った。午後の部では、「自然共生地域を問う 3 ～自然共生サイトをどうかす？」をテーマに、グループワークでの議論を行った。この試みは多様な意見交流ができると会場では好評であったが、ネット参加者にどう伝えるかについて課題が残った。
- ・ 中津市内の小学生を中心とした水辺環境の環境学習支援は例年並みの回数となった。会所属の県のグリーンアップおおいアドバイザーは昨年度から 4 名体制となっている。会員で構成する同アドバイザーのサポーターも多数参加した。市外での環境学習支援については、福岡県京築地区に加え、県内の遠方の小学校や高等学校からの依頼（佐伯市や臼杵市）も数件あった。
- ・ 河川関連の行事として出前授業、山国川おサカナ観察会などを実施した。出前授業は、福岡県側の唐原小で実施。おサカナ観察会は昨年同様山移川の耶馬溪ダムスポーツ公園で行った。

- ・ テレビ・ラジオ・新聞などマスコミへの取材協力を多数行った。NOASFM、NHK、TOS、大分合同新聞、読売新聞、釣りビジョン、中津ケーブルテレビ等から取材を受け広報につながった。中津市報6月号に自然共生サイトについて特集が組まれ、記事についての監修をした。
- ・ 環境省九州地方事務所主催の自然共生サイト交流会「ネイチャーポジティブ社会を九州の地から」が5月に北九州市で開催された。他地域の自然共生サイト管理者や行政担当者などと広く交流ができた。そこから九州を代表するデパート博多大丸の九州探検隊の活動に協力したり、北九州市より自然共生サイト申請の相談を受けたりすることになった。
- ・ 前項に関連して博多大丸九州探検隊と立命館アジア太平洋大学のインターン生から取材を受け、11月に福岡市で開催された博多大丸九州探検隊 Xmas ツリー点灯式に登壇した。中津干潟舞手川河口湿地や尾無の湿地についてパネル展示（ツリー設置期間来場者数約200万人）とあわせて理解を広げることができた。ここでも他サイト関係者との新たな交流ができた。

② 調査研究活動

- ・ 干潟調査は、昨年度までのカブトガニドローン産卵調査の結果に基づき、東浜にコドラートを設け幼生調査を実施した。砂浜を掘って産卵状況調べるカブトガニ産卵調査で大新田・東浜の各所で多数が確認された。シギ・チドリ類調査では、全体的な数の減少を報告した。日本国内全体でも減少傾向にあり、継続的な調査が求められる。調査報告書と保全の提言をまとめ、市に提出した。
- ・ カブトガニ関連の調査は、例年同様に産卵、幼生の個体数、混獲された成体などについて調べた。今期も概ね例年通り多数が確認された。
- ・ 中津干潟の調査は、NPO 法人南港ウェットランドグループをはじめとする協力者のおかげで、相対的にも中津干潟の重要性が高まってきたことが示された。一昨年度作成・配布した「中津干潟レポート 2023」は中津干潟の生物相の基礎情報となり、国の自然共生サイト申請時にも役立った。
- ・ 野依新池の調査は、トンボ類を中心に昆虫、水生生物を対象に行った。隣接する植野池の水位が長期にわたり下がったことで、2年連続で発生がみられなかった。
- ・ 水産大学校、日本文理大学、群馬大学など複数の大学の調査に協力した。信州大や宮崎大の学生が来所し調査に協力した。
- ・ JEAN の海ごみ調査および全国川ごみネットワークの調査に協力した。

③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動

- ・ 海岸清掃は、5月・9月・12月に大新田、3月に三百間で実施した。参加者数は合計540名と昨年度よりも少ない結果となった。松林景観再生活動についても、ビーチクリーンと同時開催で、当日に参加者を募る方法をとってきたが、毎回10名程度の参加にとどまった。
- ・ 海ごみの最新状況を学ぶ目的で一般社団法人 JEAN の吉野美子理事を招き「海ごみ学習会」を行った。参加者からは新たな気づきが得られたとの感想を得た。
- ・ 2023年度から浜瀬川のゴミ問題に取り組み、今年度も会員1名が年間を通して月1回のペースで主に左岸側のプラスチックゴミを回収した。中津市きれまち隊優秀団体として表彰された。
- ・ 県立工科短期大学校はビーチクリーン・松林整備作業を計画したが悪天候のため、講話のみの実施となった。城北中学校は300人余りの生徒が参加し三百間でビーチクリーンを行った。小楠小学校4年生と保護者150人余りが今年もビーチクリーンと松林整備を実施した。伊藤園(株)が大分県で行う環境保全事業として、松林整備作業を3月末に実施し、当会が協力した。

- ・ 毎月第1土曜日に東浜でプチ・ビーチクリーンを行った。今年で2年目。海ごみやボランティア清掃に興味のある方へのフォローアップを行った。企業や団体の研修的性格も帯びてきた。年間を通して100名程が参加した。
 - ・ 「世界湿地の日」にあわせて、「舞手川河口湿地」の清掃活動を行った。
- ④ ブルートourリズムなどの地域振興を推進する活動
- ・ 当会の関係者が集う10月のメンバーズデーを小祝漁港荷さばき場で行った。協力を得た漁業者の船に会員が乗り、漁業現場を見学する体験を取り入れた。
 - ・ 3月の海苔すき体験のワークショップは、漁協の協力を得て小祝荷さばき場で行った。今年度は、市外の参加者や初参加者が多かった。
- ⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信
- ・ ガタガタ通信は3回発行し、国の自然共生サイトなどの広報を行った。郵便料金の値上げがあり、通信運搬費が嵩むことからHTMLメールによる配信も検討したい。
 - ・ HPのアクセス数は昨年の36,227件から31,700件へ減少した。増加を目指してSNSの活用、HPをスマートフォン向けに改装することも検討課題である。
 - ・ 正会員向けメルマガ「ガタガタマガジン」の配信は、正会員が業務の内容を知ることができることと好評であった。
 - ・ 環境保全やNPO経営など各種の勉強会に20回ほど出席し、地域のオピニオンとしての役割を果たすため情報収集活動を行った。特に自然再生の具体的な方法を示す有機土木の新たな知見については、広く伝えて行きたい。
 - ・ 7月「中津干潟の日」に関わるトークセッションには、チラシを見て参加した一般市民のほか、行政担当者や議員の参加もあり、「水辺に遊ぶ会」が目指している自然共生サイトやラムサール条約について周知することができた。
 - ・ 2030年までに海と陸地の30%を保護区にするという30by30が2023年から進められている。2026年3月に「中津干潟舞手川河口湿地」がOECMの日本版である環境省の自然共生サイトに認定されたことを受け、6月に中津市長に報告した。
 - ・ すでに認定を受けていた「尾無の湿地」・「中津干潟舞手川河口湿地」を地域生物多様性増進法（環境省・国交省・農水省）における自然共生サイトに申請し、9月認定された。
- ⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など
- ・ 舞手川河口で実施している養浜の試みについては、舞手川河口が自然共生サイトに認定されたこともあり、養浜に関わった関係各位と連絡をとりながら今後もモニタリングを継続する。
 - ・ 中津市環境審議会、中津市下水道会議、グリーンアップおおい推進会議など行政の設置する会議へ参加し、提言等を継続的に行った。
 - ・ 野依新池に関連して、今年度、中津市歴史博物館が主導して、懸案である行政と地元と保全団体で構成される協議会の立ち上げを目指す会議に3度出席した。運営内容は模索中であり今後実効性のある組織になることを期待する。
 - ・ 中津市の天然記念物の種指定が実現したベッコウトンボは、今後は県の天然記念物の指定などを目指して活動したい。県・市の担当部署と連絡調整しながら保全を進めていく。
 - ・ 11月、千葉県で行われたSAVEJAPANプロジェクトキックオフミーティングに参加し、同プロジェクト関係者との交流を深めることができた。
 - ・ 自然共生サイト申請についての相談をNPOが2件、自治体が1件、企業からも1件受けた。中津市内外に対象地は多く存在するのでできるかぎりサポートしたい。
 - ・ 市内の団体（中津中央ロータリー・ガールスカウト）からの講話などの出席依頼、市

外の博物館、企業などからも各種相談を受けた。

- ・ マスコミ取材、情報提供なども適宜実施した。
- ・ 行政、大学などからの NPO や環境保全、自然共生サイト関連のアンケート依頼に多数協力した。

⑦ 持続可能な社会を追究するためのその他の活動

- ・ くん炭製造器や竹炭製造器を購入し、保全作業に必要な炭の製造を行い、自然再生の一助となった。
- ・ 11 月、野依新池ベッコウトンボ保全作業を行った。13 名と少ない人数であったが、池内の草を池外に運び出した。行政関係者からも多数の参加があった。
- ・ 整備を継続していた大新田松林にクロマツの実生を発見し、対策を行った。
- ・ 自然共生サイト「尾無の湿地」整備作業を行った。草刈りや土水路の整備、尾無の湿地の中に炭をまく作業を行った。サイト入り口の門扉の設置作業を行った。

令和7年度事業報告書

令和7年4月1日から令和8年3月31日まで

特定非営利活動法人 水辺に遊ぶ会

2 事業の実施に関する事項

特定非営利活動に係わる事業

定款の事業名							
事業内容	実施月日	実施場所	従事者の人数	受益対象者の範囲	受益対象者の人数	支出額(円)	
① 自然に関する理解を深めるための啓発活動の推進							
自然観察会	ベッコウトンボ観察会	4/29	野依新池	13名	市民他	31名	3,731,127
	春の干潟観察会	5/11	大新田	14名	市民他	134名	
	山国川おかしな観察会	8/3	スポーツ公園	13名	市民他	37名	
	アカテガニ観察会	8/9	大新田	16名	市民他	40名	
	秋の干潟観察会	10/5	大新田	12名	市民他	138名	
	メダカと冬鳥観察会	12/14	東浜	2名	市民他	12名	
その他の行事	中津干潟の日の集い	7/6	ル・ドリー	16名	市民他	31名	
	中津干潟の日写真展	7/15~8/3	歴史博物館	2名	市民他	不特定	
	海の絵コンテスト	夏休み	中津市内	4名	児童	968名	
	こどもアカデミア	8/16	今津コミュ	14名	市民他	74名	
	夏休みWS	夏休み	ひがたらぼ	13名	市民他	21名	
保育園での環境学習指導	1回	中津市	7名	園児	42名		
小学校での環境学習指導	34回	中津市・外	93名	児童	1476名		
中学校での環境学習指導	6回	中津市	11名	生徒	772名		
高等学校での講師	3回	中津市	8名	生徒	30名		
短大・大学の環境学習講師	1回	中津市・外	1名	学生	94名		
社会教育の場などでの講師	5回	中津市・外	5名	市民他	100名		
企業・その他団体他での講師	5回	中津市・外	5名	児童・市民他	50名		
中津干潟NETアカデミア	12/21	今津コミュ	15名	市民他	不特定		
児童向海ごみ学習用冊子編集	3月	大分県内	1名	児童・県民他	不特定		
マスコミ対応	18回	中津市	36名	市民他	不特定		
② 調査研究活動							
生物調査(カブトガニ)	20回	中津干潟	59名	市民他	不特定	1,459,690	
生物調査(シギチドリ類他)	25回	中津干潟	69名	市民他	不特定		
生物調査(ベッコウトンボ・生息)	17回	野依地区他	22名	市民他	不特定		
その他(ベントス、アライグマなど)	18回	中津干潟	14名	市民他	不特定		
他機関との協働(水産大・日本文理群馬大・熊本大・大分大・九州大・信州大立命館アジア太平洋大・山口大など)	18回	中津干潟他	30名	大学他	40名		
③ 海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する啓発活動							
ビーチクリーン(漂着物調査)	大新田海岸	5/4・9/14・12/14	大新田	39名	市民他	415名	624,895
	三百間海岸	3/8	三百間	12名	市民他	125名	
	漂着物調査	1回	大新田	4名	市民他	不特定	
	学生への指導	2回	大新田他	6名	児童・生徒他	400名	
	プチビーチクリーン	12回	東浜	24名	市民他	98名	
	海ごみ学習会	10/13	小楠CS	9名	市民他	14名	
	舞手川河口湿地	2/7	舞手川河口	5名	市民他	不特定	
松林景観再生	一般参加作業	5/4・9/14・12/14	大新田	3名	市民他	18名	
	専門作業	3回	大新田	6名	市民他	不特定	
	児童・保護者への指導	1回	大新田他	4名	児童・保護者他	140名	
リバークリーン	蛸瀬川	通年	蛸瀬川	15名	市民他	不特定	

④ ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動						
メンバーズデー（漁船体験乗船）	10/12	小祝漁港	2名	市民他	10名	71,981
海苔すき体験	3/16	小祝漁港	11名	市民他	36名	
⑤ 自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信						
会報誌発行	3回	国内	9名	国内	1200名	194,738
ホームページ維持管理	通年	国内	2名	市民他	31,700名	
生物データベース管理	通年	国内	2名	研究機関等	不特定	
勉強会参加	20回	国内	40名	会員	不特定	
⑥ 民間および公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など						
TOTOリモデルフェア	3/7	TOTO工場内	4名	市民他	不特定	164,087
伊藤園（株）環境保全作業支援	3/28	大新田松林	6名	市民他	不特定	
野依新池ベッコウトンボ保全作業	11/23	野依地区	14名	行政・市民	不特定	
野依新池・植野池保全助言	3回	野依地区	6名	行政・団体	不特定	
今津ふれあいわいわい祭り	11/23	今津地区	2名	行政・市民	不特定	
中津市お魚感謝デー	11/16	小祝	8名	行政・市民	不特定	
中津市環境審議会	1回	中津市役所	1名	行政・市民	不特定	
中津市下水道会議	1回	中津市役所	1名	行政・市民	不特定	
大分県グリーンアップおおいた推	1回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
大分県海岸づくり説明会	1回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
大分県グリーンアップおおいた地域推	1回	宇佐市	1名	行政・市民	不特定	
瀬戸内海環境保全セミナー	1回	大分市	1名	行政・市民	不特定	
川のワークショップ実行委員会	3回	中津市他	2名	行政・市民	不特定	
河川協力団体	通年	中津市他	3名	行政・市民	不特定	
アンケート協力（主なもの）	10回	ひがたらぼ	10名	行政・市民	不特定	
学校ヒアリング協力	12回	ひがたらぼ	12名	学校	不特定	
団体ヒアリング協力	7回	ひがたらぼ	7名	団体	不特定	
五十石川連携ほか	通年	中津市内	3名	市民他	不特定	
中津市環境ポスター・標語審査	1回	中津市役所	1名	行政・市民	不特定	
自然共生サイト関連ヒアリング	5回	中津市内	5名	行政・市民	不特定	
ベッコウトンボ保全に関する検討	通年	中津市内	1名	行政・市民	不特定	
⑦ 持続可能な社会を追求するためのその他の活動						
野依新池関係保全作業	通年	野依新池周辺	3名	行政・市民	不特定	880,005
尾無の湿地関係保全作業	通年	尾無の湿地	14名	行政・市民	不特定	
保全の枠組み指定に関する活動	通年	中津市内	2名	行政・市民	不特定	
メンバーズデー	10/12	東浜	12名	会員	11名	
「ひがたらぼ」運営	通年	ひがたらぼ	2名	行政・市民	不特定	
NPO基盤整備	通年	ひがたらぼ	3名	行政・市民	不特定	
商品（カプトガニサブレ・海苔他	通年	中津市・外	2名	行政・市民	不特定	
ガタガタ広場水道設備運営	通年	大新田	2名	行政・市民	不特定	

活動計算書

令和 7年 4月 1日から令和 8年 3月31日まで

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会
(単位:円)

科 目	金 額	
I 経常収益		
1. 受取会費		
正会員受取会費	155,000	
賛助会員受取会費	157,358	
特別会費	301,110	613,468
2. 受取寄附金		
受取寄附金	1,581,701	1,581,701
3. 受取助成金等		
受取補助金・助成金	1,816,522	1,816,522
4. 事業収益		
①自然に関する理解を深めるための啓発活動	2,300,162	
②調査研究活動	1,901,000	
③海岸清掃ほか環境美化や廃棄物問題に関する活動	4,000	
④ブルーツーリズムなどの地域振興を推進する活動	20,000	
⑤自然環境に関する情報の収集・蓄積・発信	0	
⑥民間及び公共団体の環境に関する事業に対する支援・提言など	112,280	
⑦持続可能な社会を追究するためのその他の事業	272,251	4,609,693
5. その他収益		
受取利息	5,185	
雑収入	1,160	6,345
経常収益計		8,627,729
II 経常費用		
1. 事業費		
(1)人件費		
給料手当	2,160,000	
事務局経費	0	
雑給	110,520	
法定福利費	359,485	
福利厚生費	98,713	
人件費計		2,728,718
(2)その他経費		
業務委託費	757,300	
諸謝金	239,248	
印刷製本費	777,672	
旅費交通費	508,640	
通信運搬費	576,543	
消耗品費	733,912	
修繕費	0	
諸会費	18,000	
会議費	1,000	
水道光熱費	15,275	
減価償却費	0	
車両費	9,000	
賃借料	63,080	
保険料	47,004	
交際費	0	
図書費	48,180	
支払手数料	23,846	
雑費	54,826	

渉外費	0		
広告宣伝費	64,748		
売上原価	233,380		
租税公課	600		
その他経費計		4,172,254	
事業費計		6,900,972	
2. 管理費			
(1) 人件費			
給料手当	240,000		
事務局経費	0		
雑給	12,280		
法定福利費	39,943		
福利厚生費	10,968		
人件費計		303,191	
(2) その他費用			
業務委託費			
諸謝金			
印刷製本費	9,080		
旅費交通費	9,240		
通信運搬費	121,413		
消耗品費	187,614		
修繕費	12,272		
諸会費	11,840		
会議費	0		
水道光熱費	140,300		
減価償却費	408,650		
車両費	0		
賃借料	101,970		
保険料	9,520		
交際費	15,300		
図書費			
支払手数料	387		
雑費	14,655		
渉外費	79,490		
広告宣伝費	0		
租税公課	0		
その他経費計		1,121,731	
管理費計		1,424,922	
経常費用計			8,325,894
当期経常増減額			301,835
III 経常外収益			
過年度損益修正益	101,178		
経常外収益計		101,178	
IV 経常外費用			
過年度損益修正損	87,919		
経常外費用計		87,919	
税引き前当期正味財産増減額			315,094
法人税、住民税及び事業税			71,000
当期正味財産増減額			244,094
前期繰越正味財産額			7,901,953
次期繰越正味財産額			8,146,047

(法第28条第1項関係様式)

令和7年度「特定非営利活動に係る事業」会計貸借対照表
(報告式)

令和 8年 3月31日現在

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会

科目・摘要	金額 (単位:円)		
(賃金収支の部)			
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金	5,084,801		
未収金	3,430,864		
前払金	109,800		
立替金	0		
棚卸資産	19,200		
その他			
(流動資産合計)		8,644,665	
2 固定資産			
土地	0		
建物・構築物	817,300		
減価償却累計額	▲408,650		
車両	0		
備品	0		
その他	0		
(固定資産合計)		408,650	
(資産合計)			9,053,315
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金	0		
未払金	756,944		
前受金	42,500		
預り金	36,824		
法人税等未払金	71,000		
(流動負債合計)		907,268	
2 固定負債			
長期借入金			
(固定負債合計)		0	
(負債合計)			907,268
III 正味財産の部			
前期繰越正味財産		7,901,953	
当期正味財産増加額(減少額)		244,094	
(正味財産合計)			8,146,047
(負債及び正味財産合計)			9,053,315

(法第28条第1項関係様式)

令和7年度財産目録

(法人一括)

令和 8年 3月31日現在

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会

科目・摘要	金額 (単位:円)		
(貸金収支の部)			
I 資産の部			
1 流動資産			
現金 現金手許有高	133,942		
普通預金 大分銀行1	591,045		
大分銀行2	0		
ろうきん	2,865,218		
郵便貯金	231,285		
郵便振替	918,741		
漁業協同組合	195,375		
電子マネー	1,099		
シンカブル	148,096		
未収金	3,430,864		
前払金	109,800		
立替金	0		
棚卸資産	19,200		
その他	0		
(流動資産合計)		8,644,665	
2 固定資産			
土地	0		
建物・構築物	817,300		
減価償却累計額	▲408,650		
車両	0		
備品	0		
その他	0		
(固定資産合計)		408,650	
(資産合計)			9,053,315
II 負債の部			
1 流動負債			
短期借入金	0		
未払金	756,944		
前受金	42,500		
預り金	36,824		
法人税等未払金	71,000		
未払消費税	0		
(流動負債合計)		907,268	
2 固定負債			
長期借入金	0		
(固定負債合計)		0	
(負債合計)			907,268
正味財産			8,146,047

財務諸表の注記

特定非営利活動法人水辺に遊ぶ会

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準(2010年7月20日 NPO法人会計基準協議会)によっています。同基準では、特定非営利活動促進法第28条第1項の収支計算書を活動計算書と呼んでいます。

(1) 固定資産の減価償却の方法
定額法

(2) 引当金の計上基準
該当なし

(3) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理
該当なし

(4) ボランティアによる役務の提供
ボランティアによる役務の提供は、4. のとおりですが活動計算書には計上しませんでした。

(5) 消費税等の会計処理
該当なし

2. 事業費の内訳

事業費の内訳は別表のとおりです

3. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

特に該当なし

4. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

(単位:円)

内 容	金 額	算定方法
環境活動作業 1,000名、平均1時間、計1,000時間	1,035,000円	単価は大分県の最低賃金によって算定 (@1,035円)

5. 使途等が制約された寄附等の内訳

(単位:円)

内 容	前期繰越額	当期受入額	当期減少額	次期繰越額	備 考
森と海をつなぐ環境保全事業	0	295,983	7,339	0	減額修正
SAVEジャパンプロジェクト2025_2026	0	1,037,878	0	0	
自然環境保全活動	0	290,000	0	0	
コープ大分	0	200,000	0	0	自然に親しむイベント

6. 固定資産の増減内訳

中古化説コンテナ倉庫設置(10年以上経過物件) 817,300円

7. 借入金が増減内訳

特に該当なし

8. 役員及びその近親者との取引の内容

特に該当なし

9. その他特定非営利活動法人の資産、負債及び正味財産の状態並びに正味財産の増減の状況を明らかにするために必

・現物寄附の評価方法
特に該当なし

・事業費と管理費の按分方法
従業員給料手当及び水道光熱費は事業毎の総支出額比(従業員人件費を除く)によって按分した。

・重要な後発事象
特に該当なし

・その他の事業に係る資産の状況
特に該当なし